

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表：令和 6年 3月 1日

事業所名 エミット大手前

	チェック項目	はい	いいえ		工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4			大阪市中央区という場所においては広いスペースを確保している。	
	2 職員の配置数は適切である	2	2		規定人数は満たしているが、子どもの人数的にもう少し人員が欲しい所。	保育士や児童指導員の募集を行い、充足を行っている。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	3	1		本児の自発性を尊重するための療育を行っている。どこに何があるかは子どもには分かりやすく区分している。1階エントランスなどの状況などは共有スペースのため手を付けることが難しくバリアフリーを最大限におこなうことは難しいが、介護福祉士等の職員がいるため、人的な形でフォローを行っていききたい。	
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	2	2		業務が始まる前のミーティングや終わった後のカンファは行っているが更に十分に行っていきたい。	今後は必ず行う形で時間を取る体制を作っていきたい
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3	1		今回はじめて行っている。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	1	3		今年公開する。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	3		現状でははっきりと行っていないが、グループ会社等の評価等は受けている。	
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	2	2		多忙の中で研修の機会を設けることが難しかったが、グループ内での全体研修などには参加している。更に研修の機会を設けたい。	施設内での研修機会を設けたい。
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	4			利用を行う際にアセスメントを行い、どのようなニーズがあるかを考えながら計画を行っている。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	1	3		現在は使っていない。今後はvinlandなどの標準化ツールを使いたいと考えている。	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	3	1		ミーティングを行い、どのような支援を行うかを具体的に話し合っているが、時間が無い場合も多いのでその部分は課題。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4			その都度、その子どもの具合によって当日の支援の中でも変更を加えて、常に楽しく学習が出来る様に努めている。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	3	1		休日は開所していない。長期休暇に関してもいつもと同じ形での受け入れを行っている。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	3	1		個別と集団を加味して支援を行っている。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	2	2		基本的にははっきりとした役割分担は行っていないが、特に支援が必要だと思われる子や個別で見ると子に関しては役割を分けることもある。	今後はもう少しはっきりとした役割分担を考えていきたい。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	2	2		次の支援の指標とするとともに、支援計画を元に基づき、職員全体で共有を行っている。	必ず振り返りが出来る時間を設けたい。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4			保護者には連絡帳にて日常の様子を伝え、業務日誌にて、日常の様子を毎日記述している。	
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	4			保護者との相談の際に、支援計画の変更を望んでいる場合には速やかに見直しをする体制を整えている。		
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	4			本児の自発性を尊重した上で、主に社会面を伸ばすことを第一に考え、学習面の提供も出来る様に問題集等資料を整えている。		

関係機関や保護者との連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4			参画しており、日常の様子を詳らかに伝えている。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	2	2		保護者の要請で学校訪問などを行っており、その際には連携を行ったりもしている。	具体的な学校との連携はまだだが、保護者の要請には応えられる様にはしておく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	2	2	1	医療的ケアが必要な子はいないが連絡先等は保護者から伺っている。また訪問介護事業所とも繋がっているため、対応は可能。	医療的ケアの妨げにならないような情報を保護者や場合によっては主治医から直接話をして把握していく
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	2	2		現状ではまだだが、いつでも受け入れられる体制を整えている。	要請があり次第、書面などで引継ぎが行える様に努めていく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	1	2	1	現状学校を卒業する子はいないが、グループ内にB型やグループホームがあるので綿密な連携は可能である。	他サービスへの見学会などを実施したいと考えている。
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	1		相談支援員等との話し合いや保護者との話し合いにて、他事業所での支援も把握した上で支援を行っている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	3		現状では行っていない。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	2	2		子ども部会や研修会などにも参加した。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4			保護者が送迎の際に来所した時、常に話を伺っている。相談としては、時には2~3時間の話し合いを行うこともあった。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	4			去年12月よりペアレント・トレーニングを行っている。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	3	1		入所の際に行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4			来所したい際に積極的に相談を承ると同時に、ペアレント・トレーニングも開催して、保護者への支援を行っている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3	1		来所したい際に積極的に相談を承ると同時に、ペアレント・トレーニングも開催して、保護者への支援を行っている。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4			相談は積極的に承り、その内容を職員にも伝えて、ニーズや支援の徹底を行っている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	2	2		会報などは作成していないが、インスタグラムなどSNSで積極的に様子を伝えたり、ペアレント・トレーニングの際にはチラシなどを保護者に配り周知している。	
	35	個人情報に十分注意している	4			個人情報保護の契約を結び、鍵付きキャビネットに個人情報の書類を入れて保管している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4			保護者に送迎に来てもらっているために、そこで子どもの様子を伝えている。また写真付き連絡帳を作成し、その都度保護者にファイルに挟んだ上で渡している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	3		現在の所行事などをする予定はない。	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	2	2	各マニュアルは作成しているが、周知の部分に問題がある。改訂も含めて今後は徹底をしていきたい。	今後は改訂も含めた周知徹底を心掛けたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	2	2	話し合いなどを行っている。近日中に訓練を行う予定。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4		グループ内での研修に参加して対応を行っている	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	4		現状身体拘束を行わなければならない子どもはいないのだが、虐待や身体拘束がどのようなものであるかを職員と共有している。必要に合わせて載せていく。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	1	インテークの際にアレルギーのことは必ず聞き、もし何かを提供する際の情報収集を行っている。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4		事故報告書とヒヤリハット報告書を作成させ、事業所内で共有している。	